

ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者: 70代 男性 要介護 3

利用期間: 2019年 10月～2021年 3月現在

主疾患: パーキンソン病(令和元年6月下旬～)

経過: パーキンソン病、入居後から施設を出ていこうとして危険な行動が多く、頻繁に転倒を繰り返していた。

幻覚やせん妄の症状も多く、興奮し職員を攻撃するような行動もあった。

ご家族協力、医療連携、ユマニチュードを続けていき、危険な行動や転倒が殆どなくなり、穏やかに笑顔で過ごす場面が増えた。

内 容

ご入居されてから、帰宅欲求が発生すると急に走り出したり、エレベーターに乗り込んだり、非常ドアを開けようとしたりするなど危険な行動が多くありました。また、パーキンソンの症状で動きの鈍い時も多く、頻繁に転倒を繰り返していました。時には職員を攻撃するような行動や、食欲の抑制(買い物)ができないなど欲求が抑えられない場面もあり、対応が困難な状態が続いていました。

ご本人は内科医であり、病気の知識があるが故にパーキンソン病への苛立ちも強くあるように感じられました。

心地よく安心して生活して頂けるよう、看護・介護・ケアマネ・主治医・ご家族がワンチームとなり対応を検討していきました。帰宅の欲求が強く施設職員だけで困難な場合には、ご家族の面会を依頼し協力を得る事が出来ました。買い物の欲求では、隣接するコンビニへの付き添いを対応しました。その他、主治医と連携してドーパミンを抑制する薬や向精神薬の調整を行いました。

介護課では、ユマニチュードの対応で寄り添い続けました。24時間ご本人が希望する事へ出来る限り対応し、運動症状が強く動作が鈍い時も寄り添い介護ケアを提供、感情が抑えられない場面ではご家族の協力が得られる環境である事を感じて頂ける様に施設全体で意識を共有し、統一された対応を徹底する事で信頼関係を築けるように努めていきました。

若い頃の生活で楽しかった事のお話を聞いたり、カラオケを一緒に歌ったり、好きな車の話をしたり、テラスへご案内し、スマートフォンで写真撮影をして奥様に LINE で送信したり、関わり続けていく中で徐々に穏やかな時間が増えていくのを実感できました。



危険な行動もなくなり、転倒も減少、入居当初から10月4件、11月7件、12月3件、1月1件、2月3件、3月1件、4月2件と7ヶ月で計21件あった転倒も5月以降なくなりました。

今では穏やかに職員と笑顔で生活されています。今後もユマニチュードの対応を続けていき、ご本人ご家族と更に信頼関係を深く強め笑顔で生活いただけるように努めていきます。